

東京グローバルビジネス専門学校

2022年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京グローバルビジネス専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像等が定められているか		4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか		3
理念・目的は、社会のニーズ等に対応し適宜見直されているか		4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか		4

①課題

『学園』としての理念等を整備したので、今年度以降は、学校としてその実現のため、教職員への浸透が必要と考える。全員で共通の認識を持ち、学園の理念に基づいた教育や学校運営ができるよう計画を立て、実施していきたい。

②改善方法

現在、前項に記載した課題解決のための浸透方法に係る計画を立てている。その方法が定まり次第、全教職員を対象にした研修や施策等を展開し、広く浸透させていきたい。特に中途入職者の多い環境なので、理念共有がしっかりと行えるよう留意したい。

③特記事項

公式ホームページ等で理念等を公開するとともに、教職員の選考を受ける方々や、進学前の教育機関関係者、入学予定者やその保護者にも、学校の位置づけを理解していただくために広く周知していきたいと考える。

2. 学校運営

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか		4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか		4
意思決定のシステムは確立されているか		3
人事処遇に関する制度は整備されているか		4
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか		4
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか		3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか		4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか		4

①課題

組織としての基礎体力向上のため、組織図の刷新を行った。現状は、その運用開始に向けた準備を行っているが、教職員の意識改革には至っていないと感じている。新しい理念、組織図を滞りなく運用をさせることに更に注力をしていきたい。

②改善方法

各部門やグループのリーダーとなる人物の当事者意識が課題解決として必要と考える。個々人の業務レベルや業務への意識は問題ないと考えているので、そのスキルや意識が『組織』へと浸透するよう、学校としての施策を施したいと考える。

③特記事項

年間のカリキュラム、学校行事、各種研修等は全て教職員が計画を立て理事会にて承認される仕組みになっている。また、毎週1回開催される運営会議が様々な意思決定の場である。また、入学希望者から在校生、卒業生の情報を管理している情報システムが導入されており、効率的に業務遂行ができています。

3. 教育活動

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか		4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか		4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか		4
授業評価を実施しているか		4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか		4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか		4
資格（免許）の指導体制は整っているか		4
資格・要件を満たした教員を確保しているか		4
研修会等教員の資質向上への取り組みを行っているか		4
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか		3
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか		4

①課題

教員の知識、技術向上の場をより広く提供したいと考える。資格や要件を満たした教職員の採用は行っているが、入職後は、個々の経験値やスキルを尊重し、そのブラッシュアップすべく機会の提供が積極的に行えていないのが実状である。

②改善方法

意欲的に更なる向上を志す者や、学校運営の改善を図るために、学生へのアンケートを実施しているので、満足度が高いとは言い切れない教職員に対し、知識や技術向上のための機会を提供したいと考える。研修、自己学習、その他の手法等、運営にマッチするやり方を精査して、導入を検討したい。

③特記事項

学習知識の定着を目的としたアプリケーションを導入しており、授業時間外にも資格取得を目的とした自己学習ができる体制を整えている。週ごとに活用状況を確認し、有効に学習を進められていることを実感している。

4. 学習成果

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか		4
資格・免許の合格率の向上が図られているか		4
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか		3

①課題

就職率はほぼ100%であり、それは、資格取得とコミュニケーション力の高さを評価いただいていることであると自負している。一方、卒業生の社会的評価を体系的に把握する術を持ち合わせていない点を課題として認識している。今後、卒業生が増えた際には、就職先のひとつひとつにアプローチすることが困難となることが予想建てできるので、その整備を実施したい。

②改善方法

卒業生や卒業生の進路先と効率的に関係を保ち、卒業生の評価を確認できる体系的な手法の確立を図りたい。定期的な連絡をするにしても、個別対応とならないような施策導入をもって当件の改善案としていきたい。

③特記事項

資格取得を促進させるような課外授業を実施したが、不定期であり、その定着がはかかっていない。学修、資格取得においては、大変良い策であると考えているので、その広報の仕方や授業内容の精査を行い、この取り組みを良い方向へと強化したい。

5. 学生支援

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか		4
退学率の低減が図られているか		2
学生相談に関する体制を整備しているか		3
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか		4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか		4
学生の生活環境への支援は行われているか		4
課外活動に対する支援体制は整備されているか		3
保護者と適切に連携しているか		3
卒業生への支援体制はあるか		4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか		—

①課題

退学率を抑止する具体の取り組みはなく、教職員の定期的な学生への声掛けや面談により、学生の状況を把握し、フォローするにとどまっている。何かしらの施策を施すことで更なる抑止ができることを期待して、解決策を考案したい。

②改善方法

上記に記載のように、退学の抑止策を施したい。新しく設定したミッション等にも『学生の意欲』の維持向上を意識した内容を明記しているので、その実現も兼ね、退学率の抑制につなげるように学習や人間関係の満足度が向上する環境の整備を実施する。

③特記事項

学生の退学検討理由は、意欲の低下だけにとどまらない。学修意欲が高い者でも、経済的な側面で不安を抱えており、学修の継続が困難な者も一定数いるのが実情である。そのような理由で退学者がでないよう現行の支援制度を広く活用している。一方で、更なる支援ができるよう新制度の立案もすすめていきたい。

6. 教育環境

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか		4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか		3

①課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止を意識し、積極的な課外活動関係の案内については、常に不安視をしていた1年間であった。学生の成長機会や課外活動の機会が損なわれぬよう、当課題を解決する仕組みが必要と考える。

②改善方法

感染防止策を徹底し、従来どおり現状の課外活動を実施する、または、感染拡大の状況下においても不安の少ない活動へとシフトする等の意思決定を可及的速やかに行いたい。事務局側の判断等が原因で学生の学びの機会が損なわれぬよう、適切な活動を最低限確保したいと考える。

③特記事項

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等にも迅速に対応し、安定したオンライン授業は実施できている。また、学生の学修効果を最大限に発揮するために、施設や設備投資にも重きを置いている。学生のためにできることを引き続き実施したい。

7. 学生募集と受入れ

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか		3
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか		4
入学選考基準は明確になっているか		4
入学選考は、適性に行われているか		4
学納金は、妥当な金額設定になっているか		4

①課題

昨年度は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出等により、対面型のオープンキャンパスへの参加者が著しく減少した。また長引いた入国制限により留学生の参加者も過年度より減少してしまった。

②改善方法

新型コロナウイルス感染症が収束すれば対面型のオープンキャンパスへの参加数は改善されると推察している。前年は活発に動けなかった学校訪問を積極的に行い、進路指導の先生から本校の入試制度や特待生制度、就学支援新制度等をしっかり伝えることで募集強化を図りたい。

③特記事項

オープンキャンパスはもちろん、入学試験やプレスクールも時世に合わせ、オンライン等で実施した。導入前までは様々な不安材料も上がってきたが、動かなければ、実現はできないことを思い、引き続き新しい試みに挑戦をし続けたい。

8. 財務

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか		4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか		4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか		4
財務情報開示の体制は整備されているか		4

①課題

少子化が進む時代の中、学生募集は年々厳しさが増しているが、財務状況は概ね健全である。家庭年収がそもそも低い家庭の学生や経済的に急変してしまった家庭の学生が、授業料や教材費を支払えないケースも微増しているように感じられる。安定した財務基盤を固めるために、その支援も急務であると実感している。

②改善方法

授業料収入の減少は、退学者の増加が大きく影響してくる。退学理由は様々であるが、少しでも早期に対応することで退学まで至らないようにすることが重要である。また、当校は高等教育の修学支援新制度の対象校に認定されているので、この制度も積極的に広報することで財務基盤の安定への一助にしたい。

③特記事項

寄付行為に基づき、定期的な予算検討や決算説明のための理事会を開催し、監事の方々に財務状況の確認をお願いしている。一昨年度より、新しい会計事務所と契約し、より精度高く監査していただく体制を整備した。

9. 法令等の遵守

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか		4
個人情報保護に関する対策が取られているか		4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価結果を公表しているか		4

①課題

現状、特筆すべき課題はないと推察している。

②改善方法

特になし

③特記事項

弁護士と顧問契約を結び、様々な相談に対し迅速に対応をしていただける体制を整えている。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		3
国際交流に取り組んでいるか		3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか		3

①課題

ボランティアや社会貢献を目的にした授業等、教育カリキュラムに制度化しているが、昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施できていない。

②改善方法

この項目も新型コロナウイルス感染症の収束が待たれる。

③特記事項

産官学の連携に積極的に参加することや、地域貢献のための清掃活動等を検討している。